

平成18年5月の解説(府県天気予報)

【5月の天候状況】

上旬前半は日本付近が高気圧に覆われて全国的に晴れましたが後半は低気圧の影響を受けて曇りや雨の日が多くなりました。中旬は低気圧や日本の南海上に停滞した前線の影響を受けて本州以南では曇りや雨の日が多くなりましたが、北海道では晴れの日が多くなりました。下旬は低気圧や前線の影響で全国的に曇りや雨の日が多くなりました。

月を通しての日照時間は、本州以南では平年より少なく、多くの観測地点で平年の80%を下回りましたが、北海道地方では平年より多く120%を上回った観測地点もありました。降水量は平年に比べて西日本と北海道地方で多く170%を上回った観測地点がありました。気温は全国的に平年より高く、1以上高くなった観測地点もありました。

【5月の検証結果】

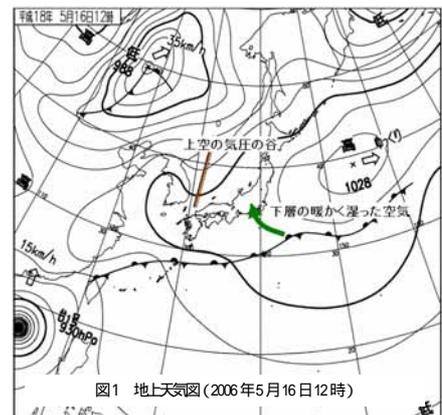
17時発表の天気予報で「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報で86%、明後日予報で82%といずれも例年^(注)より2ポイント高くなりました。地域毎の適中率では、明日予報はほぼ全国的に例年より高く、特に北海道、四国、沖縄地方では6から9ポイント高くなりました。明後日予報もほぼ全国的に例年より高く、特に中国、四国、沖縄地方では5から7ポイント高くなりました。明日の最高気温の予報誤差は、例年と比べて関東甲信、東海、近畿、中国、四国地方では0.3から0.5小さくなりましたが、そのほかの地方では例年と同様で、全国平均では0.1小さい2.0でした。また、最低気温の予報誤差は、例年と比べて九州北部地方では0.3九州南部地方では0.6小さくなりましたが、そのほかの地方では例年と同様で、全国平均では0.1小さい1.4でした。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【5月の天気予報から】

図1は5月16日12時の地上天気図です。日本の南海上に前線が停滞していますが、日本列島からは離れています。高気圧の中心が日本の東海上にあって日本付近を覆っており、広い範囲で雨が降る原因となるような低気圧や前線はありませんが、日本海西部には、上空の気圧の谷(周りに比べて気圧が低い部分)に対応して気圧の低い部分があります。

15日夕方に発表した東京地方の天気予報では、16日(明日)の天気を「くもり」と予報していました。これは、高気圧の周りを回って地上付近に南よりの暖かく湿った空気が流れ込んで雲が発生しやすくなるものの、広い範囲で雨が降る可能性は少ないと判断したため



す。

ところが、上空の気圧の谷が接近したために、その東側にあたる本州付近で南よりの風が予想以上に強まって、地上付近に暖かく湿った空気が流れ込んで大気の状態が不安定となりました。このため広い範囲で雨が降り、東京地方では昼前から夕方にかけて、多くの観測地点で1時間に数ミリの雨を観測しました(図2)

高気圧の中心が日本の東海上に進んだ後、高気圧の周りを回る暖かく湿った南よりの風と西から進んでくる気圧の谷の影響で、大気の状態が不安定になることは予想できますが、上空の大気の流れや湿りの状況などの微妙な違いで降水の有無、降水の時間帯、地域と降水量が大きく変わるため、予報が難しい現象の1つです。

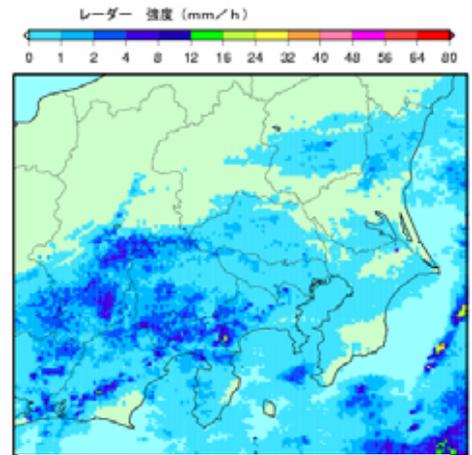


図2 気象レーダー観測値(2006年5月16日12時)

【7月の天気予報の利用にあたって】

例年、7月の後半になると各地で梅雨が明けて太平洋高気圧に覆われて晴れて暑い日が多くなりますが、梅雨明けまでは梅雨前線の影響で大雨による災害が発生しやすい時期です。この時期には日本海から東北や北陸地方にかけて梅雨前線が停滞して、特に日本海側の地方を中心に大雨になることが多くなります。

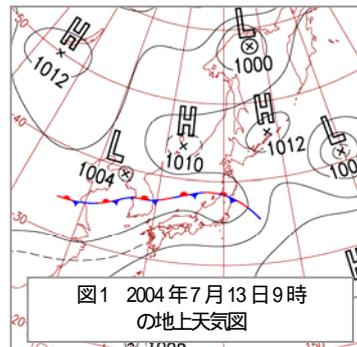


図1 2004年7月13日9時の地上天気図

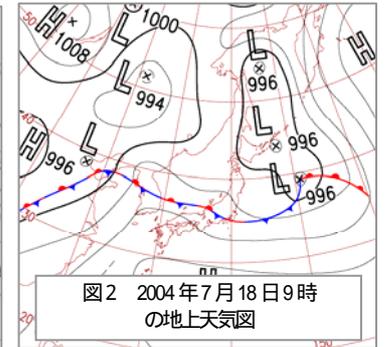


図2 2004年7月18日9時の地上天気図

2004年7月の中旬には、梅雨前線が東北南部や北陸地方に停滞して、これらの地方では連日雨が降りました。特に13日には新潟県や福島県で大雨となりました(平成16年7月新潟・福島豪雨)。さらに5日後の18日には前線がわずかに南下して福井県で大雨となり(平成16年7月福井豪雨)ともに大きな災害をもたらしました。梅雨前線はその後弱まりながら北上して北陸、東北地方では22日ごろに梅雨明けしました。

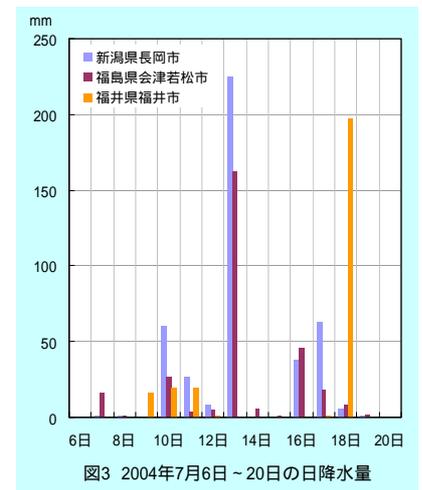


図3 2004年7月6日～20日の日降水量

梅雨の終わりごろには特に大雨が発生しやすくなります。梅雨の間に雨が降り続いて、地中に水分を多く含んでいる状態で大雨が降ると土砂崩れ、がけ崩れ、洪水などの災害が大きくなる恐れがあります。この時期に天気予報で雨の予報が出されているときには、各地の気象台が発表する気象情報で特に雨の量や雨の強くなる時間帯などに注意して事前の防災対策に活用して下さい。